



KENTANING

県短の“今”を伝える「KENTANING」
鹿児島県立短期大学振興会報vol.43



学長 飯干 明

1953年宮崎市出身。

2022年4月に鹿児島県立短期大学
学長に就任。

専門分野は、体育学/スポーツ科学/
健康科学/バイオメカニクス。

振興会会員の皆様におかれましては、平素より本学の教育・研究活動等にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。県立短期大学は、一九五〇年に鹿児島県立短期大学として開学して以来、地域に貢献する人材の育成に取り組んでまいりましたが、おかげさまで、昨年75周年を迎えることができました。この75周年の節目を祝うため、振興会のご支援のもと、食物栄養専攻の2年生が企画・調理した「75円朝食」を学生に提供し、お茶のサークルが企画した「75円特製記念パン」をイベントに訪れた県民の方に提供しました。これらの取組は、多くの学生・県民の方々に喜んでいただき、マスコミでも紹介されました。

本学は、開学以来の少人数によるきめ細やかな教育に加え、平成4年からは「魅力ある短大づくり」として、学科体制の再編やカリキュラム改革などに取り組んでまいりました。令和6年度には、将来にわたって魅力ある県立短期大学をつくること、重要な課題であるという認識のもと、鹿児島県が設置した「魅力ある県立短期大学づくり検討委員会」から「提言書」が提出されました。この提言書を受けて、本学では、時代の要請に対応した教育内容の更なる充実、学生確保に向けた取組、企業・大学等との連携、地域社会への一層の貢献について検討を進めております。

なお、鹿児島県が策定した「第4期鹿児島県教育振興基本計画」において、「魅力ある県立短期大学づくり」に関する施策の方向性の一つとして記載されているグローバル化については、前年度に引き続き、ハワイ大学のコミュニティ・カレッジで教養科目「異文化コミュニケーション（英語）」を実施しました。ふるさと納税制度による「県立短期大学応援プロジェクト」の寄附金の支援を受け、全ての学科から参加した合計30名の学生は、語学力の向上はもとより、グローバルな視野も広げました。また、文学科英語英文学専攻では、令和7年度より、学生のニーズや学力に対応した新カリキュラムを開始し、成果を上げています。リカレント教育につきましても、公開講座や奄美サテライト教室、金曜講演会などのほか、今年度から、管理栄養士国家試験勉強会を実施しております。地域貢献や教員の研究成果につきましては、本学のホームページで閲覧できる雑誌「KUDOSHIO」をご参照ください。

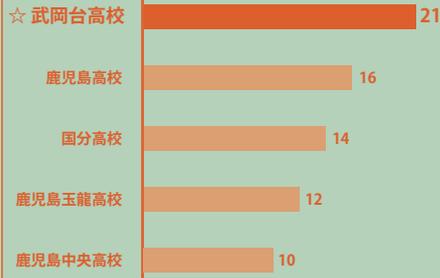
本学の教育環境の整備等につきまして、これからは、学生の皆さんの意見も大切に、振興会の皆様のご理解とご協力を得ながら、魅力ある県立短期大学づくりを推進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2025年度

数字で知る県短

1. 出身校

● 出身校ランキング



他にもこんな高校から！

加治木、松陽、鹿屋、川内、伊集院、開陽、鹿児島実業、鹿児島女子、錦江湾、鹿児島南、指宿、大島、鹿児島純心女子、志布志、鹿屋女子、鹿児島情報、樟南、出水中央、出水、種子島、明校館、鹿児島学園、川内商工、高卒認定試験、鹿児島城西、指宿商業、加世田、神村学園高等部、都城西、大口、川辺、国分中央、曾於、奄美、喜界、吹上、甲南、第一学院、人吉、屋久島、いわき光洋、鹿児島西、出水商業、蒲生、川棚、尚志館、沖永良部、鹿児島工業、鹿児島第一、鹿児島東、市来農芸、高鍋、紅葉川、野田女子、れいめい、種子島中央、徳之島、鳳凰、並木学院、福岡女子、都城京ヶ丘、飯野、大分豊府、爽風館、宮崎北、賢明女子学院、延岡、下関南

公立・私立ともに幅広く！ランキングに変化

2025年度は全国73校から新入生が入学しました。一昨年同様、武岡台高校が1位！鹿児島高校は一昨年の圏外(6位以下)、昨年の4位を経て、今年は2位となるなど年々ランクアップしています！上位には国分、鹿児島玉龍、鹿児島中央も並び、公私を問わず県内外の幅広い高校から安定して学生が集まっていることがわかります。

2. 県内外出身割合

● 県内外出身者割合

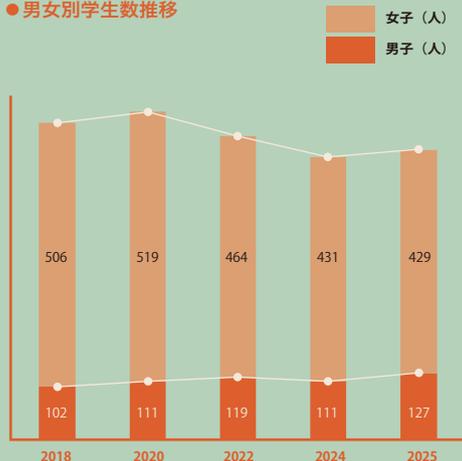


県外出身者が過去最多に！広がる出身地

県内出身9割・県外出身1割の比率は例年通りですが、県外入学者は21名と過去3年で最多に！内訳は『鹿児島240人、宮崎7人、茨城3人、大分・熊本各2人、福島・東京・兵庫・広島・山口・福岡・長崎各1人』です。東日本からの出身者も集まり、日本最南端の公立短大の魅力が全国へ着実に広がっています！

3. 男女別学生数

●男女別学生数推移



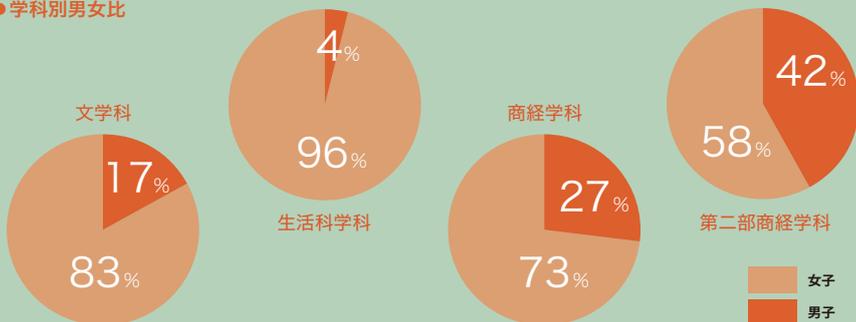
女子は安定、男子は過去最多！

今年の学生数は女子429名、男子127名でした。特に男子は、2018年以降で最多だった2022年の119名を大幅に塗り替え、過去最高を記録！昨年に続き男子学生の存在感が増しており、性別を問わず「県短」が学びの場として選ばれている勢いを感じる結果となりました！

学科ごとに個性豊かな男女比！

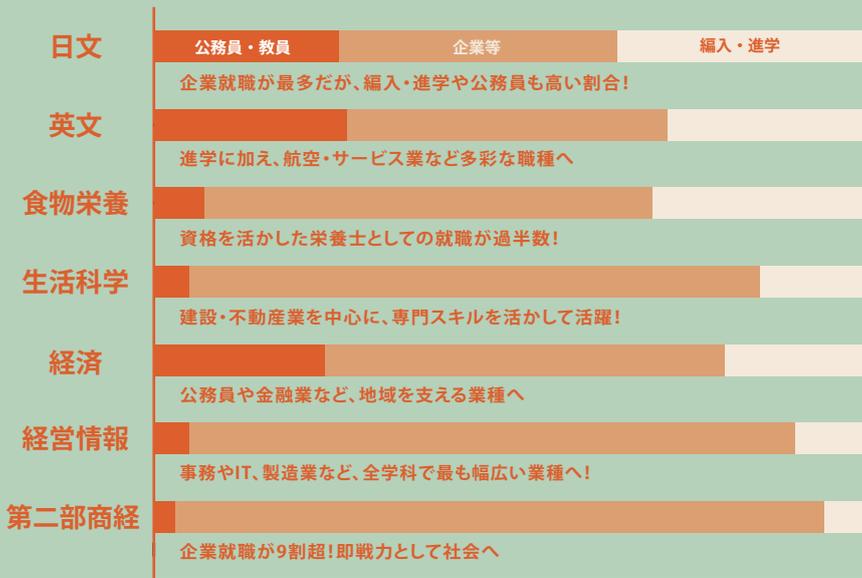
今年の男女比は学科ごとに個性豊か！男子学生の比率が最も高いのは、42%を占める第二部商経学科！一方で、最も女子学生の割合が高いのが生活科学科です。男子学生はわずか4%と非常に少数ですが、以前の2%という数字からは着実に増加しました！この勢いで、これからの県短の男子学生数はどんどん増えていくかも？！

●学科別男女比



4. 卒業後進路

●専攻別卒業後進路割合



進学・公務員・企業就職、それぞれの専門性を活かした道へ!

文学科は例年通り進学や公務員に強い一方、今年は企業就職が最も多く、より幅広い進路を選んでいます。生活科学科は栄養士や建設業など、各専攻の専門性を活かした就職が目立ちます。商経学科は金融や公務員など多岐にわたる分野へ。第二部商経学科は、例年通り9割以上が企業等へ就職しており、即戦力として社会へ羽ばたいています。どの学科も自分らしい道を見つけ、着実に歩み出しています。

ひとつのイベントから、町を盛り上げる

まちのコインで日置市を元気ある町へ



藤野ゼミ

Fujino Lab

所属：第1部商経学科

担当教員：藤野博行 准教授

ゼミ生：2年 有田、池増、岡村、牧口、伊東、
長濱、松浪、森菌、山下

1年 亀之園、佐野、津田、本間、
山口、吉川、蔵満、西

日置おばけ屋敷

日置市のコミュニティ通貨「まちのコイン」利用普及イベント。スマホアプリのQRコード読み取り機能やQ&A機能を利用し、ポイントを貯めながらおばけ屋敷を体験してもらったイベント。多くの来場者にとってもらい、町の活性化に貢献しました。



―ゼミでの活動内容は？

岡村さん 2年生は昨年、日置市美山町のマップの改良制作に取り組みました。お店同士の関わりを活かしたマップを制作し実際に、改善したマップ案の一部を使用してもらいました。

山口さん 1年生は大きな目標として、日置市の関係人口を増やすという目標を掲げ、2年生と一緒にまちのコインを普及させるイベント活動などを行っていました。

―今年ほどのような活動をしたのですか？

吉川さん 10月には戦国八口ウイン、11月には伊集院駅でお化け屋敷をするなど、まちのコインを普及させるイベントを開催しました。

―まちのコインの普及活動で苦労したことはありますか？

岡村さん そうですね。まちのコインを普及させるにあたり、通貨をもらうことができても、使う場所がないということに苦しました。この反省を生かし、1年生に引き継ぎ、イベントを通じて、まちのコインの普及に

取り組みました。

―お化け屋敷をしたとおっしゃっていました。楽しいと感じた瞬間はありましたか？

山口さん 準備期間がとても楽しかったです！どうやら驚いてもらえるか、楽しんでもらえるか、試行錯誤しながら作業することが楽しかったです。

西さん ただ驚かすだけでなく、ストーリー性をもたせながら準備していくことがすごく面白かったです。

―逆に変化したことはありましたか？

吉川さん 準備期間が短かったので、ゼミ以外の時間や土日を使って作業に取り組んだことが大変でした。でも、たくさんの人が楽しんでくれて、準備した甲斐があったなと感じました！

―成長を実感したことはありましたか？

山口さん 意見をまとめる力がゼミを通じて、成長できたと思います。メンバーが多いので、全員の意見をまとめることは難しかったです。その分、まとめた時には達成感を感じられ

ました。

―現在、まちのコインはどのくらいの登録者数がありますか？

西さん 現在は29000人くらいの方が登録してくださっています。目標は30000人を目指している。登録者数を増やせるような活動していきたいです。

―今後の目標とそのためにやりたい活動はありますか？

岡村さん そうですね。イベントがない時には登録者数が伸びないので、登録者数を継続的に伸ばしていくことです。そのため、高齢の方だけでなく、若い方や子供達にも楽しんでもらえるようにゲーム感覚で楽しめる企画を実施していきたいと考えています。

―最後に高校生に一言お願いします！

吉川さん 1・2年生で共に活動しているので、先輩後輩で交流を深められるゼミです。そして、遊びと学びが両立できるので、きつと充実した大学生活を送れると思います。ぜひ藤野ゼミに興味をもっていたら嬉しかったです。

「認知症オレンジシティかごしま」のロゴを制作！
デザインで鹿児島を魅力的に

北ゼミ

Kita Lab

所属：生活科学科 生活科学専攻

担当教員：北一浩 准教授

ゼミ生：永山、南新、吉留、國師



認知症オレンジシティかごしま



認知症の方々が安心して暮らせる社会づくりのため、鹿児島市が宣言した「認知症オレンジシティかごしま」のロゴマークを、生活科学専攻ビジュアルデザイン研究室所属の2年生と1年生がデザインしました

ゼミでの活動内容は？

南新さん 外部からの依頼に

える実践的なプロジェクトが中心ですね。今年は鹿児島市の「認知症オレンジシティがごしま」（認知症啓発活動）や枕崎市の広報誌制作等、自治体からの大きな依頼に皆で取り組みました。

永山さん 学内では作品展や振

興会報、大学案内の表紙の制作などを行っています。

「認知症オレンジシティがごしま」ではどのような取り組みをしましたか？

吉留さん ロゴやのぼり等を制作しました。1年生とも協力してチームのように動いたので、良い交流の機会になりましたね。

南新さん 2年生の案は惜しくも採用されませんでした。しかし、作品が実際に街中で形になる過程に携われたのは貴重な経験でした。

永山さん 式典で市長にお会いしたり、認知症を深く学べたりしたことも、良い経験になりましたね！

制作で苦労した点は？

國師さん 「認知症」という形の

ないものをどう表現するか悩みました。

永山さん 行政のお仕事なのでオレンジという指定色を守りつつ、鹿児島市らしさを出さなきゃいけなくて。

吉留さん 文字量も多く、レイアウトは皆苦労したと思います。

南新さん 条件の中で、いかに独自のアイデアを出して、表現を膨らませるかがデザインの難しさであり、面白いところです！

「枕崎市の広報誌制作では、どのような工夫をしましたか？

永山さん 表紙のデザインでは八〇〇号という節目を強調しつつ、「県短生とのコラボ感」を出す必要がありました。

南新さん 私たちは、「八〇〇号を目立たせた案」「県短生らしさを全面に出した案」その「中間案」の3パターンを提案しました。

吉留さん 特集ページでは実際に現地に行き、その魅力をポスターにデザインする企画を行いました。役場でも飾って頂いたり、広報誌デザインにとどまらない提案が出来たと思います。

「ゼミを通して得たスキルや経験

を、今後どう活かしたいですか？

國師さん 一番は「情報をまとめる力」です。これは仕事だけでなく、社会のあらゆる場面で必要になると思います。

吉留さん デザインのソフトを使えることも大きな武器ですね。

南新さん 日常でもチラシや雑誌のレイアウトを意識して見るようになり、視点が変わりました。また、外部の方とのやり取りで、相手の意図を汲み取るコミュニケーション能力も身に付いたと思います！

「デザインの道を考えている高校生へメッセージをお願いします！

國師さん 「絵が上手くない」と思われがちですが、決してそれだけがデザインではありません。みんなゼロからのスタートなので大丈夫です！

南新さん 大切なのは、多様なデザインに触れて視野を広く持つことです。コンペで選ばれず悔しい思いをしても、努力した過程は必ず次に繋がります。完成した時の達成感や喜びを、ぜひこのゼミで体験してください！

県短 創立75周年

学びと共に歩んだ75年、さらに未来へ

昨年 は 創立75周年を記念して多くのイベントが開催されました！

point
01

卒業生の皆さん、おかえりなさい！

曇ひとつない秋晴れの中「ホームカミングデー」が開催され、卒業生が久しぶりに母校へ訪れました。図書館では昔の卒業アルバム（昭和30年～）やシラバス（昭和50年～）がずらりと並び、各専攻のミニ講座や展示、県短で発見された酵母「県短酵母」で作ったパンの試食会など、多彩な企画で学びの歩みを感じるイベントとなりました。同日開催の県大祭も賑わい、温かな再会の場が広がりました。



point
02

県短の歴史が蘇る祝賀同窓会



同窓会では創立75周年を記念し、11月24日に鹿児島サンロイヤルホテルで祝賀同窓会を開催しました。70周年が中止となっており、以来10年ぶりの開催で、全国からおよそ300名が参加しました。第一部では本学の卒業生である、(株) 昴 会長 西村道子さんによる講演、第二部では記念品贈呈や来賓挨拶が行われました。祝宴では演奏や抽選会があり、世代を超えた交流が広がり、80周年での再会を約束して閉会しました。

75円でもしっかり! 栄養満点朝食



本学創立75周年を記念し、振興会の援助のもと、食物栄養専攻の学生による「75円朝食」が提供されました。企画から献立作成までを担当したのは、同専攻の有志学生4名。野菜、カルシウム、鉄分など、日頃不足しがちな栄養素を1日に必要な量の約半分摂取できるよう工夫された、栄養バランスの良い朝食です。

実施当日は1限目より早い時間にもかかわらず、朝食を楽しみにした学生が8時前から長い列を作りました。メニューは麦ご飯、白菜の味噌汁、鮭の塩焼き、卵焼き、小松菜と油揚げのお浸し、バナナヨーグルト。ほんのり甘い卵焼きや野菜たっぷりの味噌汁に、「おいしい」「朝から元気が出る」といった声も聞かれました。友人同士で語りながら食事を楽しむ姿は、給食の時間を思い出させるような温かな光景でした。朝食を終え、笑顔で授業へ向かう学生の姿も多く見られ、忙しい毎日の中でも、朝食を大切にするきっかけとなる企画となりました。



会長挨拶



会長
(鹿児島県議会議長)

日高 滋

日頃より鹿児島県立短期大学振興会の活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。振興会会長を務めております日高 滋（ひだか しげる）です。会長として一言ご挨拶申し上げます。近年、短期大学を取り巻く環境は厳しくなっているところですが、高等教育の機会を確保することは重要な役割と考えます。このような中、県短は、本年度創立75周年を迎えました。長きにわたりきめ細やかな教育を通し地域に貢献される人材の育成のほか、公開講座や金曜講演会など身近な学びの場を提供するなど、地域社会の発展に尽力しております。

また、今後の少子化の加速を見据えて魅力ある短大づくりに取り組まれており、その実現が期待されるところです。今後ますますの発展をお祈りしています。振興会としても、学生生活がより充実したものになるよう、これからも精一杯の支援・協力をしていきたいと考えております。会員の皆様にはなお一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

振興会とは

鹿児島県立短期大学における教育の振興を援助し、地域社会の向上発展に寄与することを目的とし、学生生活がより充実したものになるよう積極的に支援・協力を行う在学生のための後援組織です。会員は学生の父母等であり、その会費を財源としながら、図書館の雑誌・新聞等の購入、資格取得助成をはじめとした就職活動への援助、課外活動や食堂・生協などの福利厚生施設に助成を行うなどの各種事業を行い、その成果が全ての在學生に還元されるよう努めています。

● 創立75周年を記念した様々な支援を行いました

日頃の活動協力に加え、創立75周年の記念行事に対しても多角的な援助を実施いたしました。イベントの様子は、本紙特集「県短創立75周年～学びと共に歩んだ75年、さらに未来へ～」にて詳しくご紹介しています。



鹿児島県立短期大学
「KENTANING」は、
ホームページでも閲覧可能です。

●URL <https://k-kentan.ac.jp>

- 発行：鹿児島県立短期大学振興会
〒890-0005 鹿児島県鹿児島市下伊敷1丁目52番1号
- 電話：099-220-1111 ●FAX：099-803-4473
- デザイン、取材、編集：生活科学科 生活科学専攻 ビジュアルデザイン研究室
2年 中野 白百合／野村 日菜乃